

ならコープの食育（たべる、たいせつ）のめざすもの

～誰もが安心して健康な食生活をおくることができる環境づくり～

市民生活協同組合ならコープ 理事長 森 宏之

はじめに

日本生協連から、2005年の食育基本法の制定を受け、2006年に「たべる、たいせつ（食育）」活動に関する生協の基本的な考え方が整理されました。

ならコープは、組合員・消費者一人ひとりが食について学び、生産と消費をつなぎ、暮らしを向上させることを「商品政策」の大きな柱としてすすめてきました。「食育」の範囲は広く、これまで私たちがすすめてきた「商品と食の活動」は、まさに「食育活動」そのものであったと言えます。これまでの食育活動の実践の上に立って、あらためて食育（たべる、たいせつ）の考え方を明確にし、事業活動と組合員によるさまざまな活動を通して「誰もが安心して健康な食生活をおくることができる環境づくり」のために、食べることを大切にし、豊かですこやかな生活をめざした「たべる、たいせつ（食育）」活動として、生産者との交流や商品学習、調理実習、子どもの食育教室などといったさまざまな企画に取り組んでいます。

I. 食育の基本的な考え方

- ①健康な心身を育むために、一人ひとりが食の知識や選択する判断力を身につけることをたいせつにします。
- ②命の源である農畜水産業の実情を学び、自然環境の大切さや命をいただくことの尊さを実感します。
- ③食品製造の現場を見て、食品のルーツを知り、食の安全に対する意識を高めます。
- ④食料問題や自給率などに関心をもち、グローバルな視点で食を見つめる力を養います。
- ⑤地産地消の拡大や食文化の継承を通して、地域の中の食をたいせつにします。

II. 組合員と広げる商品、くらしの活動

組合員が安心して食生活を送ることができるように、さまざまな取り組みを通じて、食べ物を大切にする気持ち、食事のたいせつさ、栄養バランス、食品のルーツを知る、

調理技術を身に付けるなど、消費者の食に関わるスキルアップにつなげていくことが生協の役割の一つでもあると考えています。

1. たべる、たいせつ（食育）の取り組み ～安心・安全の取り組み～

ならコープは、組合員一人ひとりが食について学び、生産と消費をつなぎ、暮らしを向上させることを商品政策の大きな柱としています。組合員が安心して食生活を送ることができるように、組合員自身が商品の成り立ちや生産、製造過程を実際に見たり、学習したりすること、生産者やお取引先との交流を通じて食についての関心や知識を高めることをめざしています。2015年度は、各エリアの組合員や行政、取引先、関係団体が工夫をこらした発表や展示、出店をおこない、食について考える機会としました。各エリアで「たべる、たいせつフェア」を開催し、5,085人が参加しました。

2. 生産者との交流

◆バケツで稲づくり企画（5月・10月） 会場：ディアーズコープつつたがわ
協力：岩手経済連・ライスフレンド(株) 26人の参加
家庭でできる米作り体験企画として、開催しました。種もみから稲が育つまでの生育について学習し、家族でコメを育てる取り組みをすすめました。

◆さつまいもの収穫体験（9月） 場所：奈良市大柳生
協力：JAならけん、55人の参加
「地産地消をすすめる会」主催で、県内の耕作放棄地を活用して栽培している地元のさつまいもの収穫の親子体験を開催しました。栽培したさつまいもは商品としても組合員にお届けしました。

◆吉野川分水ツアー（7月）
JAならけんとともに吉野川分水ツアーを企画しています。大和平野は雨量が少なく、遠く吉野川の水を引いています。ならでの水と米作りの歴史など、ツアーを通して学びます。2015年度は32人が参加しました。

◆夏休み生協牛乳のふるさと体験ツアー（8月）
大内山酪農農業協同組合（三重県） 20人の参加
ならコープ産直第1号商品である生協牛乳のふるさと大内山酪農を訪れ、牛舎、牛乳工場の見学、生産者との交流をおこないました。

3. 商品を通じての交流

◆商品学習会の開催（通年）

コープネットによる工場見学 92 企画、1,996 人の参加

39 のならコープネットを中心に、商品の産地や工場の見学会、生産者・メーカーを招いての学習会を開催しています。産地見学や工場見学などで現場を自らの目で確かめます。現場に消費者の目が入ることで食品の安全確保の向上に寄与します。

◆産地点検や工場点検（通年）

産地点検や工場点検に組合員が参加し、生産者と交流することでよりよい商品に育てていきます。

◆産直交流会 2016（2016 年 2 月） 協力 27 団体、164 人の参加

産直商品の生産者と組合員が会し、産直の取り組みや生産者の思い、組合員の願いを直接交流する場として産直交流会を開催しています。これからの課題と 5 年後、10 年後を見据えた産直提携のあり方などを参加者で確認し、産直品を使ったランチを囲み交流を図り「産地直結」への理解を広げました。

4. 学びあいとおしえあい

◆たべる*たいせつキッズクラブ 35 人の参加

子どもたちが、「キッズブック」や家庭で食について学んで提出した「おたよりカード」に、サポーターから返事をする通信型の食育サポートプログラムに取り組みました。

◆子ども料理教室 42 会場、415 人の参加

小学 3 年生以上を対象に、作る楽しさ、食べる喜びを伝え、健康で健全な豊かな食生活を送れる大人に成長してほしいとの願いから開催しています。子どもたちが「調理の基本」「食べ物大切さ」を身につける子ども料理教室への参加を呼びかけます。

◆食育サポーター活動

組合員の自主的な活動グループとして「食育サポーター」があります。3 回の連続講座を開催し延べ 41 人が参加され、新たに食育サポーターに 5 人が登録されました。おとなも子どもも一緒に食について学ぶ機会を広げました。

5. 組合員とともにすすめた商品開発

組合員の声に応じて取り組んだ子育て層向けの商品開発は、「mamatoco プロジェクト」として、子育て層 10 人の組合員（育児休業職員含む）が、試食交流会などの 8 回の開発会議を開催し、奈良県内の地元企業の協力を得て 100%国産小麦を使用した「お

やつかすてら（豆乳入り）」を開発しました。会議では、さまざまなくらしの悩みや食生活で工夫していることなども交流し、商品案内に対する意見から商品調達や企画に生かすことができました。

Ⅲ. ならコープの産直（産地直結）「よりおいしく」「より安く」「より安心」

ならコープ組合員とならコープ産直生産者が、よりよい生鮮品などの供給を通じて、お互いの生活向上をめざす「産地直結」の産消提携運動です。

1. ならコープ産直がめざすもの

- ①組合員・生産者にとってより安心・安全な生産物作りをめざします。
- ②産直品を通じて組合員の食生活向上と産直生産者の経営の安定をめざします。
- ③産直の利用をひろめ産直運動を通じて日本の農業振興をはかり、食糧自給率向上に貢献します。
- ④持続可能な生産と環境に配慮した生産・流通をすすめます。
- ⑤組合員と生産者との交流を通じて相互理解を高め、より良い産消提携関係をめざします。

2. ならコープ産直の歴史と現状

- ・1975年 産直第1号商品 「生協牛乳」、三重県大内山酪農協との産直提携
当初は奈良県内の農産品、畜産品を中心に産直商品を開発、その後野菜、果物、畜産、鶏卵、牛乳など全国へ
- ・2014年、水産産直商品として初めて「海援鯛」（高知県）を認定

2015年度、産直商品は、新たに3品目の開発と1品目を廃番し、全体で112品目となりました。また、組合員と生産者の交流においては、産地訪問や産直協議会、産直交流会など活発におこない、生産者と職員との交流や相互理解を目的とした農援隊（※1）は、9回実施し、延べ170人が参加しました。JAならけんとならコープが提携して供給する県内農産物や県内農産物を主な原料とした加工食品は、「食べる“なら”大和」商品として供給しています。

社会的取り組みとして、飼料米（産直たまごピンク）、飼料稲（大内山酪農協）の栽培と飼料化を続けています。

IV. 吉野共生プロジェクトとの連携

吉野共生プロジェクトは、「たすけあい・ささえあい・わかちあい」を信条に、奈良県生協連や県内の協同組合との連携、他企業とも協業しながら、人と人、人と地域の関係性を強め、組合員、県民がささえあう地域づくりと奈良県の環境保全、産業の振興も重要となっています。

農商工連携に基づく小ロット品の開発は、「東吉野村いきなり団子」の普及と取り扱いの開始や「下北春まな」「吉野町殿川わらび」「十津川村きのこ類」などの取り扱いを進め、イベント企画での試食など、知って知らせる活動へとつなげました。また、奈良女子大学奈良の食プロジェクト共同監修による「地産地消おせち 和洋」の継続やジビエール五條の「奈良県産しし肉」の取り扱いを開始しました。

吉野の森と水を守るための活動は、大淀町平畑運動公園植樹地において、第5回大淀町植樹祭を開催し、60人が4種80本を植樹し、5年間では約500本の広葉樹を植樹しました。吉野の豊かな森と水を守り、子どもたちに受け継ぐことの大切さを考える機会としています。

講師プロフィール

森 宏之 (もり ひろゆき)

市民生活協同組合ならコープ 理事長

1953年 奈良県明日香村生まれ
1978年 名古屋大学理学部(地球物理学専攻)卒業
市民生活協同組合ならコープ 入協
1993年 ならコープ 常任理事(～1999年度)
2000年 同 常務理事(2000年度)
2001年 同 専務理事(～2006年度)
2003年 生活協同組合連合会コープきんき事業連合理事
2007年 日本生活協同組合連合会監事
奈良県生活協同組合連合会理事
ならコープ 理事長(現職)
2012年 生活協同組合連合会コープきんき事業連合理事長

現在 市民生活協同組合ならコープ理事長
日本生活協同組合連合会監事
奈良県生活協同組合連合会理事
奈良県畜産振興協議会委員
奈良県農政推進会議農村活性化部会委員
奈良県食品安全・安心懇話会委員
生活協同組合連合会コープきんき事業連合理事長